



②引き上げた網に興味津々。



①みんなで協力して地引網を引っぺします。

7/20 SAT

干潟の役割や環境を学ぶ

小瀬川河口・リサイクルセンター

『小瀬川干潟観察会』が行われ、15組40人が参加しました。最初に、生きものの探し方や注意事項などの説明を受け、干潟へ出発。貝掘りや地引網などの道具を使って、たくさんのエビやカニなどを見つけ、参加者は大喜び。採集した生きものは、リサイクルセンターに持ち帰り観察しました。今回が初めての参加の中島大晴くん（大竹小1年）は「カニやヤドカリ、エビなどを計10匹以上捕まえることができて楽しかった」と話してくれました。



③でっかいカニを捕まえたぞ④生きものをたくさん捕まえた中島くん⑤網にかかった生きものを探します。



⑤

給食センター

親子で人気メニューにチャレンジ

7/25 THU

学校給食のメニューの調理体験が行われ、市内の児童と保護者16組40人が参加しました。献立は、学校で大人気のチキンカレーライス、かみかみサラダ、クラッシュジュースゼリー、牛乳です。しっかりと手洗した後、3班に分かれて調理開始。いつもは入ることのできない調理室や大きな調理器具に参加者は興味津々な様子でした。みんなで協力して作った給食はおかわりに長い列ができるほどおいしかったようです。直田ゆいさん（小方小5）は「大きな釜で食材を混ぜたりすることができて楽しかった」と満足そうでした。



①大きな釜でカレーを力いっぱい混ぜます②順番に盛り合わせていきます③カレーおいしい！



②



①



8月4日 早朝のアゼリアおおたけの駐車場に勢ぞろいしたのは、丹精込めた朝顔の鉢。大竹地区社会福祉協議会の『朝顔づくり展』は、コロナ禍や台風などで中止を挟みながらも半世紀を超える歴史を誇り、今回で44回を数えます。今年は昨年を上回る51の作品がエントリー。参加者の投票で各賞が選ばれます。審査委員長の三上武志さんは「花、つる、葉がそろって朝顔。葉がしっかりしていないと花が引き立ちません。しっかり日に当ててやり水やりを欠かさないことが大切」とアドバイス。今年は長雨や猛暑の影響で、花の付きが今一つという中でも、最も票を集めた向井千恵美さん（油見）は、入賞の常連。「4段のリングに平均してつるを巻きつけることが工夫したところ」。手間をかけた分がむくわれた喜びの声でした。



7月30日 地域学校協働本部が主催の「おおたけっ子らんらんカレッジサマースクール」の体験教室の一つとして、大竹国際交流協会が総合市民会館で『英語でおしゃべりクッキング』を開催し、小学生23人が参加しました。講師のオークリー・コークさんは、岩国市の中学校でALT（外国語指導助手）をしている方で、英会話のミニ講座や英語でのコミュニケーションなどを交えながらの楽しいクッキングとなりました。メニューは、ジャマイカでは定番のファストフードで、文化の一部となっているジャマイカンビーフパティ。生地や具作りに一から挑戦し、難しい工程は上級生が下級生に教えてあげるなど、班員全員で協力して作り上げました。コーク先生は「楽しかったね。またぜひやりたいよ」と笑顔で話してくれました。



7月27日・28日 自作のプラモデルやフィギュアを展示したり、その場で手軽に模型を作ったりする『プラモデルづくりクラブ』がサントピアおおたけで開催され、土・日曜日合わせて75人が訪れました。企画した地域包括支援センターの生活支援コーディネーターの浴肇さんは「趣味のことだったら家に引きこもらず積極的に外に出て行ける。こうした場で多世代の人と交流すれば介護予防になるのではないかな」との思いで企画しました。今後は2カ月に1回くらいのペースで開催したい」と考えているようです。会場に所狭しとばかりに並べられた自慢の作品の数々。そこに込められた思いを語り合う声が聞こえてきます。岩国市から来た三原悠輝くん（小1）は、人気キャラクターのプラモデルを作り「簡単だったよ」と満足げな表情でした。次回は9月7日（土）10時～15時。



④



③



②



①



⑦



⑥



⑤

7/27 SAT

土曜の夜は最高潮

大竹駅前商店街

夏の風物詩『土曜夜市』が、昨年に引き続き開催され、スペイン通り、ふれあい通りに並んだ出店で飲食やゲームを楽しむ多くの姿が見られました。ふれあい通りの駐車場に設けられたステージは、大竹高校吹奏楽部の演奏で幕を開け、ダンスパフォーマンスや、懐かしの歌謡曲の熱唱、和太鼓演奏に観客から拍手が送られていました。家族で訪れた浴隼人さん（油見）は「コロナ禍でこういう場もなかったけれど、友達家族と出会って話し込めたのも久しぶりでうれしいですね」と楽しそうな表情。クライマックスは、賞品のカーブユニフォーム争奪のじゃんけん大会で幕を閉じました。



⑨



⑧

①大竹高校の演奏で幕開け②カラフルなボールをいっぱいすくって③同級生で参加「かんれきーず」のマツケンサンバ④スペイン通りのスナイパー！⑤楽しそうな浴隼人さんたち⑥ゲームもいっぱい⑦大瀬太鼓むすび衆の激しい演奏⑧「焼き鳥いかがですか〜」⑨じゃんけん大会で新井監督のユニフォームゲット。



②



③



①

7/21 SUN

夏休み恒例の『こども天国in KUBA』が開催されました。企業や団体、警察、消防などが、さまざまな体験ブースを設け、子どもたちは元気いっぱいに楽しめます。今回初めて出展した防災士の吉川健治さん（和木町）は、防災に関する啓発活動を行っており、ビニール袋で防災ずきん、新聞紙でスリッパ、ペットボトルでランタン作りを指導。「日用品からこうした防災グッズができることも知っておいてほしい」と訴えます。商工会議所青年部（広島銀行）は、お金にまつわるクイズを出題。「どうして硬貨は丸いのか？」「お札に肖像画が使われるのはなぜ？」などの問題に家族と挑戦した齋藤旭くん（大竹小5）は、家族内でも答えはそろわず「難しかったけれど、ためになりました」との感想。お金の知識が少しばかり蓄えられたようでした。



④

①ビニール袋の防災ずきん、新聞紙のスリッパを作ったよ②お金に関するクイズ。家族で答えがそろいません③うまく釣り上げられるかな④大にぎわいの『こども天国』。



PART2